

## 家族が互いに刺激を受け成長していく

親子がすべて音楽家という音楽一家はよくあるけれども、全員がチェリストという例は聞いたことがない。平野秀清、知種、玲音の親子は珍しい例だろう。しかも、父は音楽家一直線の人生を歩んでいるが、母、娘は紆余曲折を経てチェリストになったというところも興味深い。

秀清は札幌の老舗の蕎麦屋に生まれ、高校は一般の名門校に進んだ。いっぽう知種は桐朋学園の子供のための音楽教室に学ぶが、大学は早稲田の理工学部で数学を専攻する。

**知種** 主人と知り合ったのは鈴木聡先生のお宅でした。早稲田を出てから桐朋の研究科に在籍していたときです。それから一緒にアンサンブルをやるようになって。

**秀清** 私は桐朋学園大学からオーケストラ研究生に転科、それからNHK交響楽団に入団しました。

**知種** 私と玲音は桐朋学園で早期教育を受けたながらも大学に進むことはありませんでした。一方、主人は一見順調なキャ

リアのようですが、早期教育を受けていないのでいぶん苦労があったと思います。

**秀清** 当時チェロでは、桐朋とかかわりをもたず、いきなり大学からという人はほとんどいませんでした。入ってみると周りの人は本当に達者で。



母の知種(右)は桐朋学園附属「子供のための音楽教室」にて9歳よりチェロを始める。早稲田大学理工学部卒業、桐朋学園大学音楽学部研究科修了。故鈴木聡、故徳永兼一郎の各氏に師事。1989年、札幌と東京でリサイタルを開催。室内楽で琴科音楽祭受賞。現在、新アドニス弦楽四重奏団団員、学習院女子高等科非常勤講師。

**知種** 私は高校に進むにあたって、桐朋女子高に進むと音楽のことしか知らないことになると思います。でも、そこには音楽家という険しい道から逃げたところもあったかもしれません。でも、大学を卒業する時点で再び音楽をやりたいなくなり、桐朋の研究科に進みました。それから、結婚、子育てを経験、シティ・フィルなどのオーケストラ活動もしました。でも、主人がN響でほとんど成長しているのを見て、一念発起して必死でチェロに取り組みようになったのです。

**玲音** 家族の目から見てもその頃にとてもうまくなった。そんな年になってから急激に成長する演奏家は珍しいと思います。

**知種** 玲音が生まれる前から、実は山崎伸子先生に教えてくださるようお願いしてあったのです。私はヴァイオリンもいかな、と思ったのですが、主人はぜひチェロをやらせたいと。玲音がチェロを始める前、もう一度音楽作りから勉強し直したいと考え、84年秋から発表の場として主人と二人で「ちいさな音楽会」を

始めました。やがて玲音も加わり、この春で33回になりました。自分自身が徳永兼一郎先生から習い、娘の付き添いで山崎先生のレッスンを聞くことができたと思います。それが現在の音楽中心の人生につながりました。

**玲音** 山崎先生にずっと見ていただいていた、本当ならばそのまま桐朋に行くはずだったのですが、チェロが好きになれない時期があって。直前に普通の大学を受験することにしました。でも、受験で楽器に全然触れなかった時期に、偶然、イツサーリスの演奏を聴いて、チェロってこんなに面白かったんだ、と気づきました。そこで私もあのように弾きたいという気持ちで芽生えました。でも、東京大学で学んだことも今とても役立っていると思います。留学して、言語や歴史などと結びついた音楽の奥深さを肌で感じるようになる、それに取り組むには大学で学んだことが役立ちます。

**秀清** 大学の時にチェロをまた始めたいと聞いて、そんな簡単に方向転換できるのかな、と。チェロではたして通用する



平野玲音 Reine Hirano (チェロ)

チェリストの両親のもと東京に生まれ、9歳よりチェロを始める。山崎伸子、藤原真理各氏に師事。東京大学で美学芸術学を専攻し、同大学院表象文化論コース修士課程修了。02年よりウィーンに留学。ウィーン・フィルのG.イペラーに師事し、S.イッサーリス、G.クルターからのマスタークラスを受講。アレグロ・ヴィーヴォ賞、アルティス賞、ジューメンス・ウィーン古典派賞受賞。06年ロンドン・東京でリサイタルを開くと共にCD「レイネ・デビュー」をリリース。現在、ウィーン在住。ファン・クラブ公式サイトは <http://reine-h.com/>

受験でチェロに全然触れなかった時期に、偶然、イツサーリスの演奏を聴いて、チェロってこんなに面白かったんだ、と気づきました。

か半信半疑でした。自分がその世界に入っている、とても大変なことを思い知っていますから。私がやってきたことが軽く見られているような気さえたのです。

## ウィーンで学ぶ日々

**玲音** 家の中でいつもチェロが鳴っている。それが普通でしたから。ウィーンで一人暮らしを始めてすごく静かなのに驚きました。(笑) でも、最初はこれもいいかなと思っていたのですが、やがて音が全然ないことに居心地の悪さを。音に囲まれた環境に生まれ、育ってきたことを改めて感じました。

めた時もそうだったんですね。

**秀清** でも、やる気を出してから演奏がすこく変わりました。娘もそう。それじゃ、昔からもっと頑張って弾けばよかったのに。(笑) やはり父がチェリストというのに抵抗があったのかな。



「レイネ デビュー」平野玲音vc (曲目:ドビュッシー「チェロ・ソナタ」、マズネ「タイスの瞑想曲」、トラヴィンスキー「イタリヤ組曲」、フランク「チェロ・ソナタ」、発売元:ジェイズミュージック)

**玲音** 日本でミュージックフェライン四重奏団を聴いて、その素晴らしい音に魅了されました。そして、聴いていただいたところ、アドヴァイスもとても示唆に富んでいましたので。その時から室内楽をたくさんやりなさい、とおっしゃってください

さいました。ウィーンは多くの作曲家が活動した場所、その奏法が受け継がれています。それをしっかりと伝えていただけ。また、ウィーン・フィルの伝統的なやりかたを教えてくださいただけるのも極めて貴重です。

- [平野玲音 公演情報]
- 平野玲音ファンクラブ主催「コンサートとファンの集い」(立食パーティー)  
〈日時〉11月9日〈会場〉シェ・モルチェ(広尾)
  - 「佐藤由里重コンサートシリーズ」(ピアノとのデュオ、ピュッフェ付)  
〈日時〉11月22日〈会場〉ソノリウム(永福町)
  - 「平野玲音チェロ・リサイタル」  
〈日時〉11月28日〈会場〉淀橋教会(新大久保)
  - 「平野玲音チェロリサイタル」(ディナーコンサート)  
〈日時〉12月2日〈会場〉サロン・ド・キャフェクレチュール(自由が丘)
  - 「父、母、娘 3人のチェリストによるちいさな音楽会〜第34回」  
〈日時〉2009年4月24日〈会場〉赤坂OAGホール
  - 「新アドニス弦楽四重奏団〜第13回定期」(シューベルトの弦楽五重奏曲で母と共演)  
〈日時〉5月17日〈会場〉自由学園明日館(池袋)  
※上記すべての問合せ先:平野玲音ファンクラブ事務局 080・6552・2949

大学の時にチェロをまた始めたいと聞いて、そんな簡単に方向転換できるのかな、と。自分がその世界に入って、とても大変なことを思い知っていますから。

## 平野秀清 Hidekiyo Hirano (チェロ)

札幌にて14歳よりチェロを始め、桐朋学園大学音楽学部で故鈴木聡、故レーヌ・フラシヨール各氏に師事。1974年、NHK交響楽団に入団。現在に至る。1988年、札幌と東京でリサイタルを開催。ソロ、室内楽のコンサートに数多く出演している。新エクスモン弦楽四重奏団団員。

